



平成17年 9月6日発行

アザメ新聞 (号外6)

松浦川『アザメの瀬』自然再生事業における “河川実地研修【入門編】”の実施!!



祝

H17.8.29オープン
アザメの瀬自然環境学習センター

背景

- 河川事業において河川環境の必要性は増大しているが、河川技術者の河川環境に関する知見及び現場経験の不足
- 河川環境に関する知識と現場経験を向上させる必要性
- 現場経験には実践形式の研修を行う必要性
- 長期的に河川技術者を育成していく必要性

- ・アザメの瀬の形態が環境学習に好適
- ・順応的な自然再生事業に伴い、データを蓄積
- ・アザメの瀬において環境を学習する多様なメニューが存在
- ・土研自然共生センター等多くのアドバイザーとの連携協力体制

- 『アザメの瀬』を河川環境の実地研修フィールドとして活用する
- 対象者に応じた段階的な研修カリキュラムを構築する

[段階的な研修ステップ]

【入門編】

対象: 河川実地研修(2年目職員)
時期: 8月30日午後(晴れ)

目的: 河川環境を知るための現場経験
内容: 河川環境のフィールドの基本を実体験

今回実施!

【実践編】

対象: (3年目職員～主任級)
時期: 5/30～6/2実施済み

目的: 本格的な調査体験を通じて、河川環境の基礎を理解
内容: 現場経験として植生・魚類の調査を実践

【応用編】

対象: 係長級
時期: 10月予定

目的: 河川環境の理解と実践に向けての応用
内容: 整備計画の目標論から体系的に学習
現場経験と河川模型を用いた演習

【河川実地研修（入門編） H17.8.30】

研修生20名参加!!!（入省2年目）

松浦川自然再生事業に係わる事例

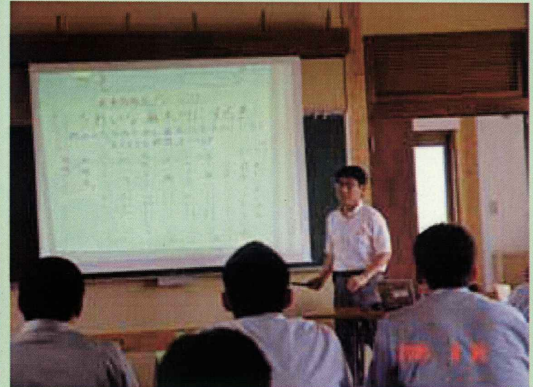
～段階的な施工と検証による順応的な整備～

◎自然再生事業の基本的な考え方を理解してもらうため、尾澤所長により分かりやすい講義がありました。研修生一同真剣な面持ちで受講していました。

講義要旨

- ・PDCAサイクルによる順応的整備、順応的管理
H14～H17に実施してきたPDCAサイクルを説明。
 - ・アザメの瀬の目標、合意形成ルール、施工（P、D）
 - ・アザメの瀬中間分析結果（C）→重要
 - ・アザメの瀬計画更新内容（A）
- ・自然再生に完璧は困難
 - ・手の届く目標を段階的に設定
 - ・データや知見を得る工夫をし、不確実性に対処

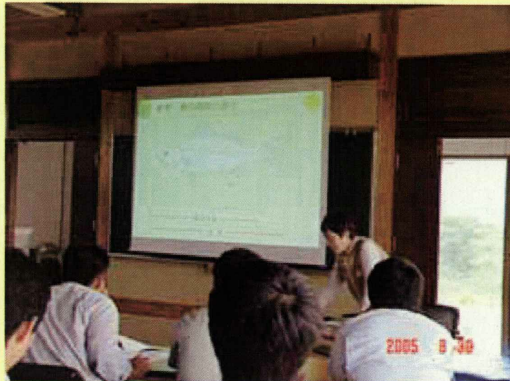
P(プラン	:目標設定)
D(ドゥ	:実行)
C(チェック	:評価)
A(アクション	:見直し)



▲ 講義風景

環境調査の概要・魚類調査

◎環境調査を行う上での、調査計画の組み立て方や調査のやり方、魚類の同定・計測のやり方など、さらに調査時の安全管理についても講義し、研修生に学んで頂きました。また、アザメの瀬内に入り魚類調査を行いました。



▲ 環境調査説明風景



▲ 現場に入っての魚類調査風景

同定・計測

捕獲魚種【フナsp・バラタナゴsp・カネヒラ・カムルチー・モツゴ
オイカワ・イトモロコ・タモロコ・ゼゼラ・タイリクバラタナゴ・コイ】



▲ 魚の体長計測風景

◎研修生からの質問

- ・S.Pって何？
→種が判別しにくい魚(稚魚等)を表す時に例えば
“コイ属S.P”と表示する。
- ・ニッポソバウナギ(在来種)はいないんですか？
→ニッポソバウナギとタイリクウナギ(外来種)が交わり
雑種化し区別が出来ない状況。
- ・外来種の駆除は？
→駆除方法は明確にはないが、全国各地で
外来種対策を検討しているところ。